

尾高一郎先生の思い出

十三回生 仲辻 章



若き日の尾高先生（仲辻さん提供）

担任の先生（昔は小学校の先生は訓導と言いました）としての、尾高先生の記憶は、昔の校舎の新館（復元されている校舎）の一階西側の教室で、教壇左側の席に座って、パイプで煙草をくゆらせておられた姿が先ず目に浮かびます。昭和15年4月のことで、五年雪組の担任としてです。（当時の千二校は、男子が雪、女子が月の一学年、2組だけで、男女別々のクラス）

尾高先生は、師範学校（現在の教育大で、旧制専門学校）を卒業され、昭和12年4月千二校に赴任されてから

4年目であったと理解します。教育現場にも馴れ、油の乗り切った意欲満々エネルギーシユな、若さ溢れる先生でした。勉強だけでなく運動特に陸上、剣道についても率先して指導されていた。

少し余談になりますが、最初受け持たれた11回生は、多士济々でした。当時千里山の特色は、陸海軍人の子弟が多かったのではないかと思います。祖父に陸軍大将、父に陸軍或は海軍の大佐、少佐などです。11回生に鈴木君という先輩がおられた。彼の父上は元海軍大佐であった。家は、千里山西5丁目現在は、華山齒科医院である。海軍記念日（5月27日は日本海海戦で、日本海軍がロシアのバルチック艦隊を打ち破った日）には、大礼服（仁丹の広告にあるような海軍将校の礼服）を着て、水交社で行われる式典に参列されたのでしよう。帰宅途中噴水前の文化堂（今はマンション）に立ち寄られ、一杯聞し召すのです。そこへ我々少年は、珍しくもあり又恐れをもって近付くのです。すると元海軍大佐は、おもむろに胸の勲章を持ち上げて、「この勲章を見せれば天皇陛下に拝謁できる」と、自慢されていた。（当時、我々国民は天皇を間近に見れば目が潰れると云われた時代である）後で物知り確かめたところ、昭和天皇が皇太子時代に、軍艦で欧州各国を歴訪された折の艦長であったということである。こんな方

が千里山には住んでおられた。

さて、千二校で11回生を卒業させて後、五年生になる我々13回生の担任となられるのですが、これは大変な重責を担うこととなるのです。

ここで旧学制について触れることが必要と思います。昭和20年8月15日、日本が太平洋戦争に敗れる以前(いわゆる戦前)は、小学校6年、中学校5年、高等学校または専門学校3年、大学3年の6、5、3、3の学制でした。そして、義務教育の小学校6年を卒業すると、高等小学校へ行く者を除いて中学校の受験が待ち受けていました。(高等小学校とは、小学校の教育を基礎として、中学普通教育を施す修業年限2年の制度であり、小学校とともに義務教育です。千二校区では吹田市片山天道にあったので、我々の間では天道、テンドウと呼び習わしていた)

このため、小学校5、六年生の担任になると、普通の初等教育、高学年の授業と別に中学校等への進学、受験指導が加わるので大変です。六年生には放課後、進学希望の生徒について補習授業が行われた。これについて特別な手当てはなく、今でいうボランティアである。

が、奥様は大変美人で、子供さんが生まれたばかりでしたが、この点は触れられていませんでした。

本題に戻って、尾高先生の勉学の指導ですが、先生の指導宜しきを得て我々の学年は、抜群の進学率でした。

当時は、大阪の府立中学校等に進学するのが受験生徒の大きな目標でした。我々の学年の進学をみると、中学では別格である浪速高等学校尋常科(七年制の中高一貫校の中学に相当し3年間の高等科を修了すれば旧帝国大学へほぼ入学できた)に美川、豊中中学には弘末、保富、徳田、藤田の4名が、茨木中学には、清水、中野、志山と私の4名、池田中学には、上山、そして淀川工業には、中村、高上の各君が合格している。

当時の大阪府下小学校の府立中学への進学率では、千二校はトップクラスで、大阪市内の集英小学校と一、二位を争っていたと先生より聞いています

その後、先生は又六年生(14回生)を担任されている。13回生を卒業させ、休む間もなく受験学年の担任です。14回生は、当初担任の先生は、受験指導に熱心でなく、父兄から猛烈な反対運動があつて退任され、今度は父兄からの猛烈な要望もだしがたく、尾高先生が六年生

尾高先生が我々、13回生の学年を受け持たれるに至った経緯は次のような事情によります。

我々の学年は、学校内のどの学年よりも悪く、受け持ちを希望する先生がいなかったと聞いていた。悪の筆頭は、美川君に言わずと筆者(私)ということですが、彼もお世辞にもおとなしいとは云えなかった。我々の学年は、一年入学以来一年宮島、二年岩田の各先生で、特に岩田先生が学年の途中で結婚退職されたため、なかなか後任の受け持ちが決まらず、臨時に小林先生そして三年は木村、四年は堀見の各先生と続いた。この悪学級を尾高先生がうけもたれることになったのです。

ここで余談です。

一年受け持ちの宮島先生(もちろん女性)ですが。非常に厳しい先生で私はいつも叱られていた。先生には我々より一年下の学年に男の子供さんがいたのを、14回生の柿崎君は覚えておられる。千里山にお住みで、家は現在末広医院(今も昔も)の向かい側、坂を上がつて3軒目だった。その上の家4軒目と思うのですが、今は亡きキンラーメンの創始者安藤百福氏(呉百福)が住んでおられた。日本経済新聞に安藤氏が私の履歴書を掲載された折に、千里山在住の記事がありました

を再度担任されることとなったのです。この学年は、浪速高等学校尋常科に、吉田、豊中中学には三笠、阿部、有馬、宇野、亀高、疋田、井上の各君が、茨木中学には、誉田、武蔵、美見、八島、日野、柿崎の各君が入学し、池田中学にも宮上君が入学された。素晴らしい合格率であった。

他方運動について13回生は陸上競技でも、美川、清水、朴、垂水の各君によるリレーメンバーは最強で、当時府下数百校に及ぶ小学校の大会で優勝し、当時の校長室には、優勝旗が林立していた状態です。剣道も強く、弘末、美川、清水、朴、吉田のメンバーで数々の大会で優勝している。野球も盛んでした。ピッチャーは中山君、私はショートで4番打者でしたが、14回生のピッチャーは、三笠洋一君(樺山翠さんの兄)彼のカーブにかかって敗けています。無理もない三笠君は東大に入り、東京六大学でも投げた逸材でしたから。

当時の千二校では秋の運動会とは別に、小運動会が一ヶ月に一度あつて、運動にも熱心でした。

少し脱線です。

陸上には、元オリンピック金メダリスト南部忠平さんが二度指導に來られたと思います。オリンピック当

時身につけられたランニングを裏返しに召され、斜めに水色のストライプと、日の丸が透けて見えていた。短距離、幅跳びを指導された。

どの指導の折か我々のクラスは、尾高先生から大目玉をくらい、クラス全体が教室に閉じ込められ詰った態となり、南部忠平さんの指導を見るのが出来ず非常に残念であった。長時間の詰った状態では、手洗いにいくことも不可能で、辛抱たまま掃除用のバケツを持ちだして、用を足さざるを得なくなった。最初に実行したのが私で、このバケツを便所に運んだのが自分であるとの美川君の記憶は信用しかねる。兎も角厳しかったが、文武両道我々小学生を健全にたくましく育てていただいたという思い出に盡きます。

同級生で忘れられないのが、保富庚午君です。この文章の最初に書いた教室へ5年生の時、西宮市から転校してきた。お母さんと妹の迪子さん(入学前)が一緒だった。教室で、転校生としての紹介が終わり、座席が決まって後、お母さんと迪子さんとが帰られるのであるが、その折、みっちゃんがはつきりと「さようなら」と、挨拶されたのが記憶に残っている。私の前の席に座った彼は、西宮の小学校の習慣か、算術の答案の解答欄にAと表記していた。Answerの略か驚きであ

養中であり、見舞って下さった先生に対し何のお役にも立てなかったことを心苦しく思っていました。

昭和38年5月17日 仲辻さんのお宅で お若いです。



しかし何時の頃からか先生は教育界に復帰され、大阪府守口市に於いて教職に立たれ、昭和38年11月私の結婚式の披露宴には、来賓として御出席いただき、過

った。作文については、先生に指名されて、教壇で朗読した。これを聞いてクラス中が嘖然とし、言葉も無かった。というのは作文の中に、文学全集を読んでいること、驚異的なのは、物語についての読後感だけでなく、作者についてもその批評を滔々と述べていることであった。随分おませであり我々とは違うというのが実感で、当時乱暴者であった私が、彼の感化によって文学や音楽に興味を持てるようになった。私の人格形成に影響を与えたうちの一人と思っている。

私の司法試験の折、最後の口述試験が終わったあと、彼の運転するロータス・エランに乗せてもらって、フジテレビで「ミュージックフェア」の録画取りに立ち会い、食事を御馳走になったのが昨日のように思える。小学時代の彼は後年のメディアでの活躍を予言するかのようで、梅檀は双葉より芳し、との諺のとおりでした。

我々より後の15回生からの千二校における尾高先生については、私としてはあまり存じません。ただ戦後共産党入党されている。戦後の混乱期に正義感に充ちた先生としては、世相との矛盾を感じての行動だったと理解します。レッド・ページにより教育界からやむを得ず退かれたのでした。そしてその当時、私は療

分のお言葉を賜っている。又村田格君の結婚披露宴には、当時守口市三郷(さんごう)小学校(元サンヨー電機本社の隣、明治七年創立)の校長をされており、私が車で宝塚市売布の式場までお送りしたこともあり、完全に教育界に復帰され、喜ばしい限りでした。

我々13回生は、男女組合前で、二回のクラス会を持ち、その度に先生も元気なご様子で出席頂きました。

しかし残念ながら、平成9年9月28日死去され、吹田市内本町の光徳寺でご葬儀が営まれ、我々卒業生も告別式に参列し、先生のご冥福をお祈りしました。

光徳寺のお墓に安らかに眠られています。